

# ほっそり夜は黒

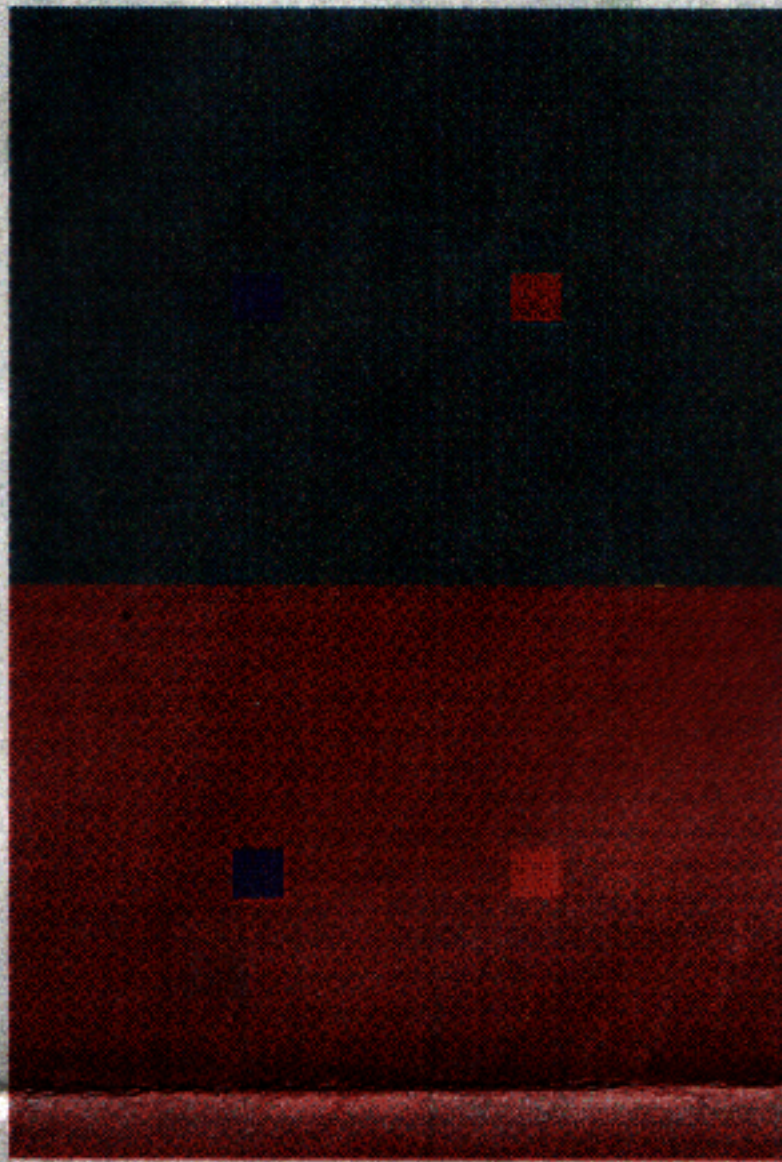
ほっそり見せたいなら、背景の色とのコントラストが弱い服を。明るい場所では明るい色を――。大阪大大学院の中野美和さんらのグループが、教授の藤田一郎さん（認知脳科学）の指導で、こんな研究結果をまとめた。「寒色系の色は小さく見える」というのが「定説」だが、周囲の色や明るさと比べて論じたところがミソ。5月に米国である国際視覚科学学会で発表する。

（小林正典）

## 着やせの法則

## 背景と同系色

コンピューターで、赤るソフトを作成。2等四角や青など7色を比較でき、方ほどの正方形を作り、



背景が赤みがかると、赤の正方形が小さく見える。大阪大教授・藤田一郎さん提供

## 脳の錯覚 阪大確認

画面上で左右一組ずつ、暗い部屋で1秒間同時に見せ、協力者にどちらが大きく見えただかを必ず答えてもらった。

実験はのべ約15人を対象に行い、色の種類・明るさともに「背景とのコントラストが大きいほど物体は大きく見える」とことが脳の錯覚で起こることがわかった。「実験を100回しても99回が同

じ結果になる」ほどの結論になった。

例えば背景が灰色の場合には大きく見えた赤色が、背景の灰色に赤みを帯びさせると小さく見えるようになった。明るい背景だと暗い色が大きく見えることがわかった。

夜の場合は黒っぽい服を着ると体がほっそり見える可能性が高い。記念撮影は、服が周りの色にとけ込むように並んだ方がやせてみえるという。

藤田さんは「背景とのコントラストの重要性を指摘したことが、この研究のオリジナル。厳密な実験結果で示したことに、より意義がある」と話している。